

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270135116		
法人名	社会福祉法人鳳彰會		
事業所名	グループホームひこぼえ		
所在地	〒851-0253長崎県長崎市早坂町1180番地7		
自己評価作成日	令和 4年 6月 28日	評価結果市町村受理日	令和 4年 8月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 4年 7月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、特別養護老人ホーム併設で、同敷地内にケアハウス、ショートステイ(併設型、ユニット型)があり、地域での一員として各事業所や、協力医療機関との連携を図り、より質の高いサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは法人が運営する特別養護老人ホームと同一建物内にあり、ホームに隣接して、ケアハウス、デイサービス、ショートステイがあり、関連事業所と連携を図りながら入居者支援に努めている。現在、コロナ禍により地域との交流を自粛しているが、職業訓練生のほか養護学校からの職場実習の受け入れを感染対策を講じた上で現在も継続し、就業に繋がった事例も窺える。食事は管理者が食材の偏りがないよう、彩りなど視覚的にも配慮しながら手づくりの料理を提供し、対面式のキッチンで職員が常に入居者を見守り、明るく声を掛けながら食事が楽しみなものとなるよう支援している。ホーム内は換気、採光、臭気対策にも配慮しており、落ち着いた空間で、入居者は居心地よく過ごされている。記録の充実、研修の充実、手作りの食事提供について具体的に取組まれており、更なるサービスの向上に期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関のすぐ目立つ場所に掲示しており、常時共有できるように心がけています。	ホームの玄関に入り、訪れる人や職員が目につく場所に理念を掲示している。真心と笑顔をモットーに、地域に愛され安らぎのあるおもてなしの心で接しその人らしい生活が送れるよう、会議等を通じて理念や基本方針について話し、職員が具体的に行動で示せるよう、接遇委員会等における研修の機会のほか実践状況を振り返りながら支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で地域の方々との交流が出来ていませんが、地域の情報等を情報誌、職員等かた伝える様に心がけています。	現在、コロナ禍の影響により地域交流は自粛している。以前は、隣接する特別養護老人ホーム等の関連事業所と合同で夏祭りを開催し、多くの地域住民も参加して交流を深めていた。職業訓練生のほか養護学校からの職場実習の受け入れは現在も継続し、就業に繋がった事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ渦で以前の様に地域の方々に向けて認知症の方を理解をお話する機会が、あまりありませんが今後、地域の方々との交流ができたり、外出する機会があった場合は極力お話しさせていただきます。また運営推進会議などで事業所の取り組み、ケアについての報告、意見交換等を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議についても、コロナ渦により文書により開催させて頂いております。直接開催が困難ですが、文書により日々の生活、行事への参加、避難訓練の様子等を報告させて頂いております。	現在、コロナ禍の影響により書面会議にて運営推進会議を実施している。各委員へ1.入居状況、2.活動内容、3.アクシデント・インシデント・クレーム等、4.消防訓練について、5.今後の課題、6.今後の方針、7その他、についてホームでの状況を報告している。	書面会議において各委員より出された意見について、口頭で「意見なし」等の回答があった場合も含め記録に残すとともに、書面会議がホームからの情報伝達のみにならないよう留意し取り組むことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種手続きについては、窓口に出向いています。また、電話等の対応や、報告、アンケート等も極力しております。	管理者は長崎市の介護保険課や高齢者すこやか支援課の担当者と介護保険更新手続きなど各種行政手続きに出向いている。新型コロナウイルス感染者発生の影響により保健所とも連携しながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、夜間以外は玄関の施錠は行っていません。身体拘束については、必要時は本人、家族様、主治医に相談を行い必要最小限に行い、改善出来る様に努めています。また、月1回法人の身体拘束委員会に出席を行い、身体拘束をしないケアを目指して取り組んでいます。	訪問調査日において身体拘束を実施している入居者はいない。現在、夜間帯のみ赤外線センサーの使用を検討している方がおり、本人及び家族より同意を得ている。法人全体の話し合いとともに身体拘束委員会で事例を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、長崎県主催の高齢者虐待防止の研修等に参加、また月1回法人の虐待防止委員会に出席を行い、虐待をしないケアが継続できる様にめざして取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で成年後見人制度、権利擁護等を学び、利用者様に対しての関わり方や必要性を学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談や、契約時に分かりやすく説明できる様に、口頭及び文書にて分かりやすく説明を行う様に努力しています。また、疑問や不安があった場合等は適切に対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話等の際は随時意見や要望等を聴くように行っています。また、それらの意見や要望等が職員間で共有出来るように連絡ノート等を活用しています。	ホームは重要事項説明時に苦情相談窓口を説明し、玄関には意見箱を設置して家族意見の反映に努めている。また、職員は家族の面会時には意見や要望を聞くようにしている。コロナ禍により面会制限を行っているが、緩和措置があった場合は面会できるよう柔軟に対応している。家族からの要望は連絡ノートに残し、職員間で共有している。	今回の家族向けアンケート調査において家族の満足度が低下している状況が窺え、コロナ禍で入居者との面会制限が継続していることなどにより、家族が不安を抱いていることが原因の一つと推察する。アンケート結果を踏まえて、例えばオンラインでの面会方法を検討するなど更なる家族への配慮に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は職員会議、日常会話等で共有し、ハード面、ソフト面等で改善が出来る様に取り組んでいます。また、意見が出しやすい環境継続して出来る様に努力しています。	法人全体に各種委員会を設置し、職員全員がいずれかの委員会の委員となり意見や提案を行っている。関連事業所間で異動があり、必要に応じて管理者が職員面談を行い、意見を聞いている。ミーティングや月1回の職員会議を通じて意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で取り組んでいます。就業規則等は職員がいつでも閲覧できる場所に設置しています。職員が生き生きと楽しく仕事出来る様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修等に参加する事によって各職員の質の向上が図れる様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修機会やサービスの質の向上を図りながら多職種と意見交換、情報収集等にも推奨しています。また、法人全体での各セクションとの連携や情報の共有にも取り組んでいます。。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より、会話やレクリエーション等での関りの中で、安心して生活が出来る様にご本人様の意向は勿論、話やすい環境作りに常に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やご連絡する際は、思いや立場を配慮しながら、普段から率直な意見や要望が訴えやすい様に心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様は勿論、連携室・関連ソーシャルワーカーとの情報を共有し、必要な支援を見極める様に努めています。また、他のサービス利用も含めた上での相談、援助も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が生活をされる上での生活の場である事を認識し、支援しています。また、生活には欠かせない役割が継続出来る様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の関係を大切に、ご家族様と共に支援し、様々な事情を配慮しながら行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、コロナ禍の為、面会を特別な事情を省き原則禁止していますが、電話等で日常生活状況等を常時提供できるように心がけています。	以前は、施設長が敷地内に小規模な菜園を作って野菜を収穫したり、お大師祭りなどの地域の催しに入居者とともに参加、入居者と馴染みの人との交流もできていたが、現在、コロナ禍の影響により自粛している。尚、感染対策を講じ、入居者個別で花見や本人が希望する場所へ連れて行くなどの支援を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係作りを大切にし、お互いを認め合えるような働きかけを工夫しつつ支援していきます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、途絶えない関係作りを大切にしています。また、いつでも気軽に相談をしていただける様な環境作りに常に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様お一人お一人の希望や、意向に関して、言葉に出来ない訴えや上手く意思疎通が困難な場合などにも、その方の立場に立った計画を立案し、取り組んでいます。	意思疎通が難しい入居者には、本人本位に検討し、担当職員が新たな気づきや本人の表情から知り得た特記事項を記録して職員間で共有し支援に活かしている。本人の意向を踏まえ、立位訓練やおやつレクに参加してもらうなど家族からの情報も参考に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の情報収集を行い、情報の共有とともに共有認識のもと把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の些細な状況、心身状態に関して共有し把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様がより良い暮らしが出来る様普段から、ご家族様、ご本人様、担当者に意見や意向を聞き、現状に応じた介護計画を作成いたしております。	介護計画の支援内容は入居者個別のケース記録にケアの実践状況が分かるよう様式を工夫し、日々の支援に活かしている。入居者の情報を共有し、介護計画の立案と介護計画の更新時には家族に説明して同意を得た上で作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況、状態の記録や連絡帳等、情報の共有に努めています。その活用内容等を活かしケアの検討や見直しを介護計画に活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応しグループホームでの生活を中心に、日々の業務を工夫し柔軟に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関りや運営推進会議等で情報の共有やご本人様、ご家族様との関りの中で安心して暮らす事ができ、ケアの充実が図れる様に支援しております		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の2週間に1回の訪問診療で状態報告や相談を行い状況に応じて受診や、ご家族様協力のもと適切な支援をしております。	かかりつけ医により2週間に1度訪問診療があるほか、眼科医、歯科医、訪問看護を定期的に利用している。入居前のかかりつけ医を継続して受診でき、専門医等への受診の際には家族へ協力を求め、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師、訪問看護師、協力医療機関の看護師等に相談し、適切な受診指示を受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際に、本人、ご家族様了承を得て情報を提供しております。入院中の面会については、コロナ禍の為に困難場合が多く見られておりますので電話等で情報収集を行い、ご家族様、医療機関とも協力し早期退院が図れる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関しては、本人、家族様より十分意向をお聞きし相談に応じられる様にしております。主治医への報告や相談等随時行い確認の上取り組んでいます。また、令和3年度より看取りさせて頂いております。ご希望の入居者及び家族様がいた場合は主治医と全職員と情報を共有し最期まで施設生活できる様に支援しています。	入居時にホームにおける看取りの指針を説明し、入居者・家族より同意を得ている。医療と連携し前年度より看取り支援を行っている。看取り後には家族より感謝の手紙をいただき、職員へフィードバックするなどやりがいに繋げている。看取りに関する研修を実施し、職員の不安軽減とチームでの看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは勿論、普段より状況や状態に応じてスキルを身につけ、共通認識にて対応を図っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	スタッフ会議等で、常に消防訓練、避難訓練を実施し、マニュアルに沿って、周知確認をし認識しております。	現在、コロナ禍により避難訓練には消防署及び近隣の方は参加せず、自主訓練を行っている。消火器操作、コンセント周囲の埃の確認、出火場所に応じた避難経路の確認のほかロールプレイを通じた訓練を実施するとともに、ホーム独自で消防設備自主点検表を整備し、職員が定期的に点検し、改善箇所は具体的に取り組んでいる。	自然災害の発生が顕著になっていることを踏まえ、自然災害を想定した訓練実施のほか、入居者情報一覧表の充実、ハザードマップの掲示、備蓄一覧表の整備、避難訓練状況の写真を記録として残すことを推奨するとともに、今後、BCP策定も視野に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様お一人お一人を尊重し、状況、状態に応じてのケアを行い、随時丁寧な対応を心がけています。	入居者の権利について「利用契約書」に明記し、本人及び家族に説明している。法人に接遇委員会を設け、職員が接遇委員となり、事例検討や職員研修を行うとともに管理者が接遇マナーの講師を担い、言葉かけにも配慮し取り組んでいる。本人の希望により同性介助にも応じ、入居者の誇りやプライバシーを損なわない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉でうまく伝えられなかったり、遠慮等をされたりする傾向が見受けられた時等には、表情を察して日々の様子やご本人様の意向、意思が確認出来る様に工夫し対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お一人お一人のペースに合わせて柔軟な対応に心がけ、日々工夫しご希望に添える様に支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく心地よく生活していただける様、特に、整容、洗面、衣服等がきちんと出来る様に心がけています。また外出やイベント時等はおしゃれ等を楽しめる様に心がけています。また、定期的に訪問理美容にて散髪も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、献立作成をしていますが、その場の状況に応じて変更して、すこしでも美味しく食べて食べて頂ける様に支援しています。	食事は管理者が食材の偏りがなく、彩りなど視覚的にも配慮しながら手づくりの料理を提供し、食事前には職員が嚥下体操を実施して誤嚥に留意しながら支援している。入居者の状態に応じてキザミ食、トロミ食、ミキサー食などのほか本人の嗜好により代替食を提供している。嗜好調査を定期的実施し、誕生会には行事食を提供し、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食物アレルギーや咀嚼、嚥下力低下、様々な疾患を抱えているご入居者様に関しましても状況に応じて、食事形態等考慮し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っております。義歯や残歯のブラッシングには、必ず職員が確認し仕上げ磨きを行っています。また、希望する入居者様は毎月1回訪問歯科診療受けられ、歯科医師からも口腔ケア時の注意点、口腔内の状況を伝えて頂き、職員間で情報を共有し、口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表をもとに、職員間で情報共有を行い、適時にご利用者に合わせたトイレ誘導や声掛け等を行い、スムーズな排泄ができる様に心がけています。	排泄チェック表により本人の排泄パターンを把握し、入居者個別に排泄を誘導して、入居者が現在のレベルを維持できるよう支援している。便の量、色、軟の情報も記録に残している。尿取りパット、紙おむつの適正な使用についても職員間で話し合い、家族の経済的な負担に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に関しまして、食事や水分の摂取量等気がけております。また、運動や腹部のマッサージ等を行ったり、入居者様の状態に応じて、対応、予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別に対応しており、無理な誘いをせずに、その日の状態、状況、時間等考慮しながら入浴して頂いております。	週2回午前中の中の入浴を基本として支援している。本人の体調により午後の中の入浴や入浴日以外の中の入浴を柔軟に行っている。脱衣所にはヒーターを設置し、ヒートショックの防止に努めるとともに、保湿剤を準備し、注意深く全身の皮膚観察を行い、入居者の清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様の状態に応じて休息して頂いたり、安眠が保てるように工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者様の服薬に関しては用途、副作用を把握したうえで、主治医や薬剤師等と情報共有し服用後		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者様の生活歴や状況に応じた個々の役割を提供する。また楽しみや話題作り等生活してる上で見い出せる様に心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の為、病院受診等以外の外出は殆どできていませんが、コロナ渦が解消した際は、以前のように散歩やイベント等に参加し交流が深められる様に支援できたらと思っています。	現在、コロナ渦により外出支援を自粛している。感染対策を講じ、ホームの敷地内周辺で外気浴をしたり散歩をするなどのほか、最近では感染の状況を踏まえ、花見に行くなど可能な範囲で支援している。管理者は今後、コロナ終息後には外出支援を再開したい意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理上、個々のお財布を持参されており、要望等があった際は、ご本人、ご家族様に確認を行い安心して頂いております。また、月締めには必ず、ご本人、ご家族様にも明細書や現金出納帳の確認も欠かさず行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望にて電話での対話、お手紙等のやり取りは極力支援させていただいてます。特にコロナ渦において面会が中止になっていましたので、電話や手紙のやり取り回数を増やしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の共用空間では安心して快適に過ごして頂ける様に季節の花を飾ったり等季節感が感じられる様に配慮しています。また、行事、イベント時の表情等も掲示し、思い出していただける様な配慮も心がけています。	共用空間は温度及び湿度を管理し、入居者が快適に過ごせるよう配慮している。対面式キッチンにより職員が入居者と言葉を交わしながら調理している様子があり、家庭的な雰囲気である。換気、採光、臭気対策にも配慮しており、落ち着いたある空間で、入居者は居心地よく過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様のの思いを大切にし、共同生活で快適に安心して過ごせる様に工夫します。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用品、なじみの物等生活感のある居室作りを本人様、ご家族様にお聞きしながら、心地良い生活ができる様に工夫しています。	本人の居室には、本人の馴染みの物、愛用品、寝具、家族の写真や飾り物のほか、テレビや位牌等も持ち込まれており、これまでの生活を継続できるよう居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。室内は定期的に清掃し、季節によりホームで加湿器を準備し、換気面や衛生面に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のお一人お一人が安全な場所で、バリアフリーの中、出来るだけ自立できる様に工夫しています。		